

一 資 料 一

学生の授業評価における記名式と無記名式の有意差 (2)

長 瀬 荘 一

The Differences in Student Ratings of Teaching between Signed and Anonymous Questionnaires (2)

Soichi NAGASE

要 旨

平成26年度後期に開講した全学共通教養科目「心理学」の連続した14回の授業の満足度について、10点法による学生の授業評価を記名式と無記名式により調査した。結果、記名群と無記名群との間に有意差が認められた授業はなかった。1つの授業において、 $p < .10$ 水準で有意傾向が認められたものの、統計的な有意差は認められなかったことから、仮説「学生による授業評価においては、記名式による評価の方が無記名式による評価よりも高い評定値が表れる」は、先の研究(1)の結果と異なり、支持されなかった。

キーワード：学生の授業評価 student ratings of teaching
記名式による評価 signed questionnaire
無記名式による評価 anonymous questionnaire

問題と目的

本研究は、『学生の授業評価における記名式と無記名式の有意差 (1)』¹⁾に続く研究である。平成3年の大学設置基準の改定以降、日本の大学では学生による授業評価が積極的に行われるようになった。しかし、その際、授業評価をする学生に記名させるかどうかについては議論が分かれている。そこでは、無記名式だと無責任な回答になる恐れがあるとの指摘があり、記名式だと対教員との関係において率直な回答を得がたいとの指摘がある。これに関しては、小学校、中学校、高等学校における授業評価についても、以前から同様の指摘がみられている。学生の授業評価における記名式と無記名式の差異については、牧野幸志(2003)が両者の間に有意差はみられないとし²⁾、北海道大学評価室(2005)も同様の報告を行っている³⁾。また、金城ら(2013)は記名式が評価に及ぼす影響は少ないとする授業評価の事例を紹介している⁴⁾。その一方で、小久保ら(2006)は記名式で実施された授業評価では自己評価点が高くなるとする報告を行っている⁵⁾。また、吉川ら(2012)も、僅差としながらも記名群の評価は無記名群の評価より高い傾向が表れるとしている⁶⁾。

先の『学生の授業評価における記名式と無記名式の有意差 (1)』では、筆者が担当する全学共通教養科目「心理学」を対象にして、記名式と無記名式の間有意差がみられるかどうかを検証した。結果、第1～14回の各授業において、記名群と無記名群との間に $p < .01$ 水準で有意差が認められたのが1つの授業、 $p < .05$ 水準で有意差が認められたのが2つの授業、 $p < .10$ 水準で有意傾向が認められたのが2つの授業であった。これにより、仮説「学生による授業評価においては、記名式による評価の方が無記名式による評価よりも高い評定値が表れる」は概ね支持された。但し、結果を詳細にみると、仮説が支持された授業は、第1, 7, 9, 11, 13回と、いずれも学籍番号が奇数の学生が無記名の授業評価を行った場合であり、学籍番号が偶数の学生が無記名の授業評価を行った場合には、どの授業においても有意差はみられなかった。学生の学籍番号は、学生の入学時に事務的に行う機械的な割り振りであるが、結果として、奇数番号の学生の方が偶数番号の学生に比べて、ほとんどの授業で低い評定値、つまり厳しい評価を行っているのが特徴であった。詳細には、全14回の授業評価において、奇数番号の学生の評定値が高かったのは1つの授業であり、奇数番号と偶数番号の学生が同点だったのが1つの授業、残り12の授業はいずれも、最高0.6～最低0.1点の幅で、奇数番号の学生の方が低い評定値であった。つまり、先の研究においては、比較的低い評定値を示す傾向のある奇数グループが無記名群になった場合にのみ、統計的な有意差又は有意傾向がみられた。

以上の経緯を踏まえ、本研究では、仮説「学生による授業評価においては、記名式による評価の方が無記名式による評価よりも高い評定値が表れる」について再度検証を行うため、平成26年度後期に開講した全学共通教養科目「心理学」を対象に、同じシラバスで、異なる学生が受講した授業にも、先の研究(1)と同様の傾向がみられるかどうかを検証することにした。

方 法

本研究では、10点法による学生の授業評価の調査分析を実施するにあたり、先の研究(1)と同じ、「学生による授業評価においては、記名式による評価の方が無記名式による評価よりも高い評定値が表れる」という仮説を設定した。

その上で、平成26年度後期に筆者が担当した全学共通教養科目の講義「心理学」の連続15回の授業の内、第1回～14回の授業の各回において、記名式で授業評価をする記名群と無記名式で授業評価をする無記名群に分け、出席したすべての学生に授業の満足度を10点満点で総括的に評価させて集計した。先の研究(1)は平成26年度前期の講義、本研究は平成26年度後期の講義で、開講期と受講生は異なるものの、同じシラバスによる授業である。

記名群と無記名群の分け方については、先の研究(1)と同じ方式をとり、奇数回(第1, 3, 5, 7, 9, 11, 13回)の授業においては学籍番号が奇数の学生に無記名式で評価させて無記名群(※偶数の学生には記名式で評価させて記名群)とし、偶数回(第2, 4, 6, 8, 10, 12, 14回)の授業においては学籍番号が偶数の学生に無記名式で評価させて無記名群(※奇数の学生には記名式で評価させて記名群)とした。

学生に授業評価をさせる際には、前もって、目的が研究資料作成のためであること、学生の

成績には何ら影響しないことを説明して、率直な授業評価を促した。

調査の時期

平成26年9月～平成27年1月（全学共通教養科目の講義「心理学」、金曜5時限の第1～14回）

調査の対象

平成26年度後期、全学共通教養科目の講義「心理学」の受講届を提出した本学の学生（計71名。奇数番号28名、偶数番号43名、全員が女子）のうち各回の授業の出席者

調査内容

全学共通教養科目の講義「心理学」の連続15回の授業の内、第1回～14回の各授業について、授業終了後に授業の満足度を10点法により総括的に評価させた。

調査方法

- (1) 全学共通教養科目の講義「心理学」の授業前に、1～10の評価点が記入されている2種類の評価用紙のうち、指定する1種類を学生に配付した。
 - ・奇数回（第1, 3, 5, 7, 9, 11, 13回）の授業では、学籍番号が奇数の学生に無記名式の評価用紙を配付した。偶数の学生には、記名式の評価用紙を配付した。
 - ・偶数回（第2, 4, 6, 8, 10, 12, 14回）の授業では、学籍番号が偶数の学生に無記名式の評価用紙を配付した。奇数の学生には、記名式の評価用紙を配付した。
- (2) 各授業が終了した時点で、学生に、「いま受けた授業の満足度を10点満点で評価してください。これは研究資料のためのアンケートです。皆さんの成績とはまったく関係がありませんので、思ったままを素直に評価してください」と説明した。
- (3) 学生は、それぞれの評価用紙に印刷されている1～10の数字の中から、自分が評価した点数に○印を記入した。
- (4) 学生は、順不同で、記入した評価用紙を教室出口の机の上に置いて教室を退出した。
- (5) 学生が教室を退出した後で、すべての評価用紙を回収し、記名群と無記名群に分けて集計した。

結果と考察

1. 10点法による学生の授業評価の集計結果

表1は、先の研究(1)で得られた平成26年度前期講義「心理学」における学生の授業評価の結果である。表2は、本研究で得られた平成26年度後期講義「心理学」における学生の授業評価の結果である。

表1、表2ともに、各回の上段が記名群、下段が無記名群である。奇数回の授業では、学籍番号が奇数の学生が無記名群となり、偶数回の授業では、学籍番号が偶数の学生が無記名群となっている。

表1 10点法による学生の授業評価 全14回の集計結果 (前期)

評点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計(人)	平均(点)	SD	
第1回 記名(偶数)	0	0	0	0	0	0	2	14	9	30	55	9.2	0.95	** p<.01
無記名(奇数)	0	0	0	0	0	3	8	20	10	22	63	8.6	1.21	
第2回 記名(奇数)	0	0	0	0	0	0	3	5	19	29	56	9.3	0.85	n.s.
無記名(偶数)	0	0	0	0	0	0	0	6	15	36	57	9.5	0.68	
第3回 記名(偶数)	0	0	0	0	2	0	1	5	15	32	55	9.3	1.11	n.s.
無記名(奇数)	0	0	0	0	1	0	7	9	16	28	61	9.0	1.15	
第4回 記名(奇数)	0	0	0	0	1	1	11	9	12	22	56	8.7	1.31	n.s.
無記名(偶数)	0	0	0	1	1	1	3	11	10	25	52	8.9	1.37	
第5回 記名(偶数)	0	0	0	0	0	0	10	15	16	19	60	8.7	1.08	n.s.
無記名(奇数)	0	0	0	0	1	4	7	16	15	17	60	8.5	1.28	
第6回 記名(奇数)	0	0	0	0	2	1	5	14	9	16	47	8.6	1.33	n.s.
無記名(偶数)	0	0	0	0	1	2	5	12	12	26	58	8.9	1.26	
第7回 記名(偶数)	0	0	0	0	0	0	2	9	18	22	51	9.2	0.86	† p<.10
無記名(奇数)	0	0	0	2	0	0	7	10	11	21	51	8.7	1.44	
第8回 記名(奇数)	0	0	0	0	1	1	6	13	8	24	53	8.8	1.26	n.s.
無記名(偶数)	0	0	0	0	1	3	4	13	14	19	54	8.7	1.27	
第9回 記名(偶数)	0	0	0	0	0	2	4	8	12	23	49	9.0	1.15	† p<.10
無記名(奇数)	0	0	0	0	1	1	8	14	14	16	54	8.6	1.21	
第10回 記名(奇数)	0	0	0	0	0	0	4	6	17	26	53	9.2	0.92	n.s.
無記名(偶数)	0	0	0	0	0	1	3	7	8	32	51	9.3	1.04	
第11回 記名(偶数)	0	0	0	0	0	0	6	9	8	26	49	9.1	1.09	* p<.05
無記名(奇数)	0	0	0	0	2	0	4	20	14	16	56	8.6	1.17	
第12回 記名(奇数)	0	0	1	0	0	2	4	13	13	22	55	8.8	1.37	n.s.
無記名(偶数)	0	0	0	0	0	1	4	13	11	20	49	8.9	1.08	
第13回 記名(偶数)	0	0	0	0	0	2	3	7	13	27	52	9.2	1.10	* p<.05
無記名(奇数)	0	0	0	1	2	1	10	12	6	25	57	8.6	1.53	
第14回 記名(奇数)	0	0	0	0	0	0	3	6	14	31	54	9.4	0.89	n.s.
無記名(偶数)	0	0	0	0	0	0	2	5	13	32	52	9.4	0.82	

表2 10点法による学生の授業評価 全14回の集計結果（後期）

評点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計(人)	平均(点)	SD	
第1回 記名(偶数)	0	0	0	0	3	0	4	14	7	15	43	8.6	1.40	n.s.
無記名(奇数)	0	0	0	0	0	0	2	9	5	9	25	8.8	1.01	
第2回 記名(奇数)	0	0	0	0	0	0	1	3	8	14	26	9.3	0.83	n.s.
無記名(偶数)	0	0	0	0	0	1	0	2	14	20	37	9.4	0.82	
第3回 記名(偶数)	0	0	0	0	1	0	4	6	13	12	36	8.8	1.17	n.s.
無記名(奇数)	0	0	0	0	0	0	1	7	6	11	25	9.1	0.93	
第4回 記名(奇数)	0	0	0	0	0	1	3	10	5	6	25	8.5	1.10	n.s.
無記名(偶数)	0	0	1	1	0	2	4	11	4	13	36	8.4	1.70	
第5回 記名(偶数)	0	0	0	0	0	0	2	7	11	19	39	9.2	0.91	n.s.
無記名(奇数)	0	0	0	0	0	2	2	4	7	12	27	8.9	1.25	
第6回 記名(奇数)	0	0	0	1	2	0	5	6	5	5	24	8.0	1.63	n.s.
無記名(偶数)	0	0	1	0	1	3	10	7	5	6	33	7.8	1.59	
第7回 記名(偶数)	0	0	0	1	1	0	3	4	10	12	31	8.8	1.47	n.s.
無記名(奇数)	0	0	0	0	0	1	3	6	7	7	24	8.7	1.14	
第8回 記名(奇数)	0	0	0	0	0	1	3	8	5	8	25	8.6	1.16	n.s.
無記名(偶数)	0	0	0	0	3	2	7	10	9	7	38	8.1	1.44	
第9回 記名(偶数)	0	0	1	0	0	3	7	10	5	7	33	8.0	1.53	n.s.
無記名(奇数)	0	0	0	1	3	1	3	8	3	2	21	7.5	1.62	
第10回 記名(奇数)	0	0	0	0	0	1	2	3	11	8	25	8.9	1.06	n.s.
無記名(偶数)	0	0	0	0	1	0	3	3	15	19	41	9.1	1.09	
第11回 記名(偶数)	0	0	0	0	0	0	0	2	9	14	25	9.5	0.64	† p<.10
無記名(奇数)	0	0	0	0	0	1	1	4	3	8	17	8.9	1.21	
第12回 記名(奇数)	0	0	0	0	0	1	0	7	6	11	25	9.0	1.04	n.s.
無記名(偶数)	0	0	0	0	0	0	3	14	12	12	41	8.8	0.94	
第13回 記名(偶数)	0	0	0	0	2	1	4	7	10	17	41	8.8	1.39	n.s.
無記名(奇数)	0	0	0	1	0	2	4	4	10	4	25	8.2	1.45	
第14回 記名(奇数)	0	0	0	0	0	0	0	4	3	16	23	9.5	0.77	n.s.
無記名(偶数)	0	0	0	0	0	0	1	5	6	28	40	9.5	0.81	

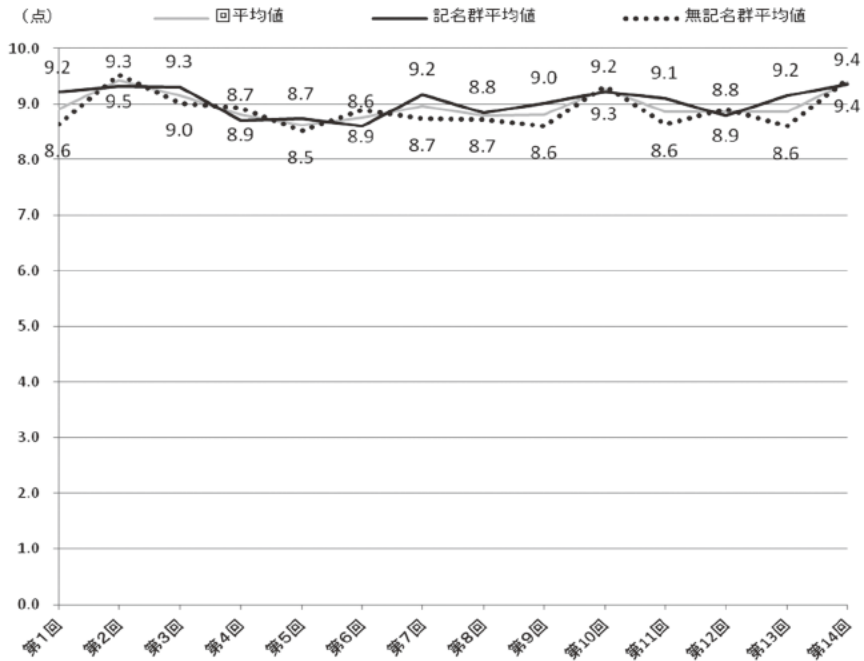


図1 記名群と無記名群の平均値（前期）

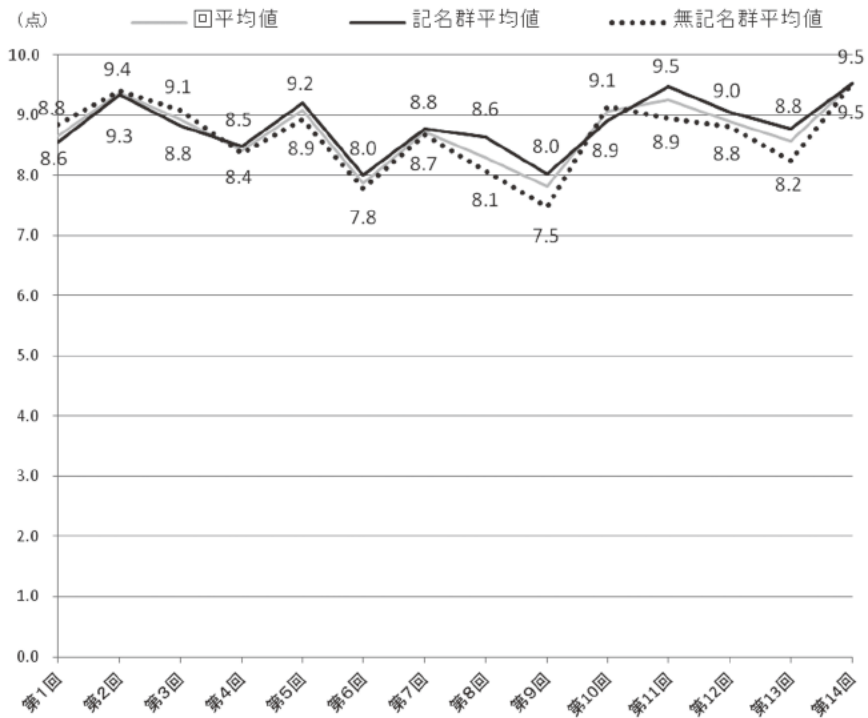


図2 記名群と無記名群の平均値（後期）

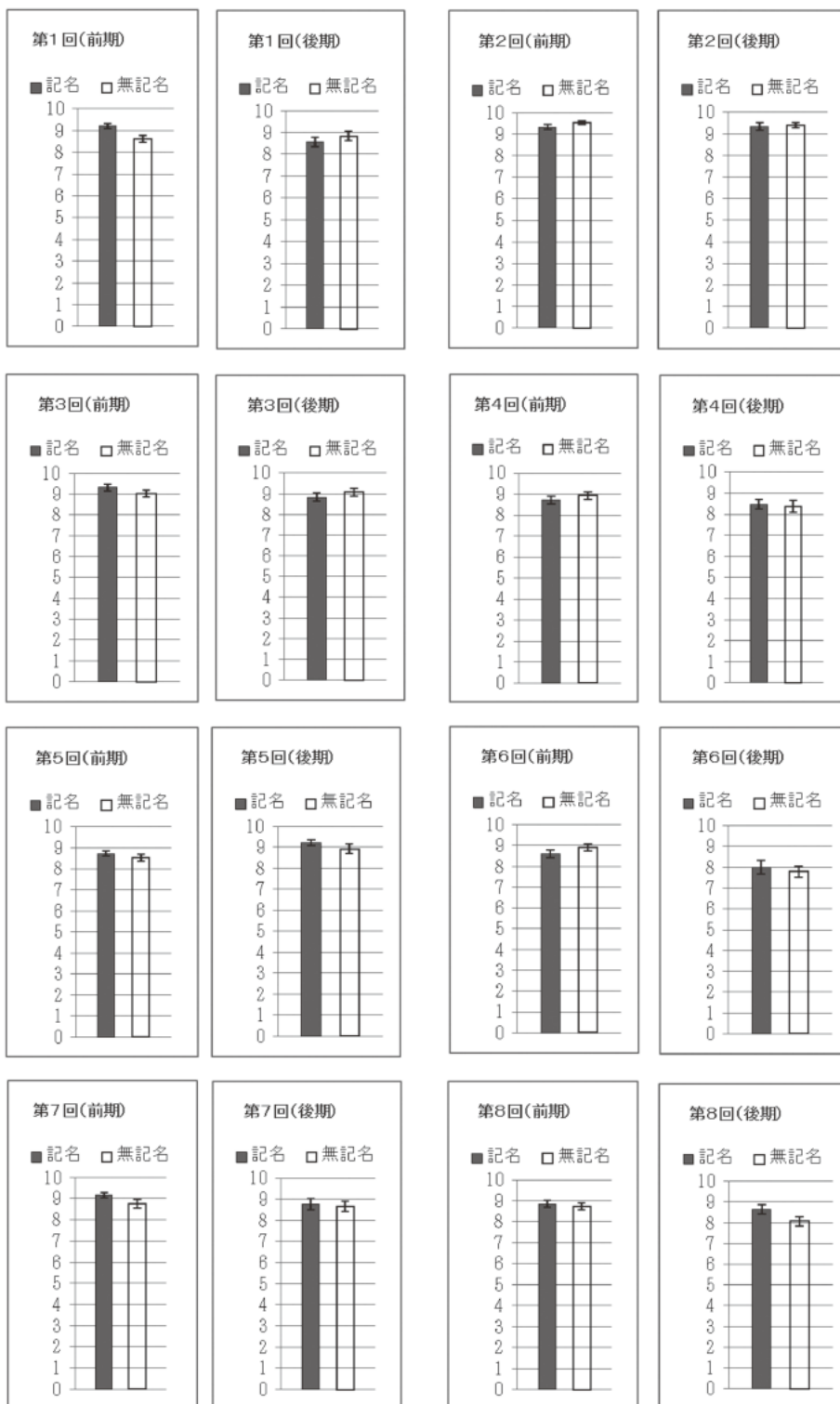


図3 授業毎の記名群と無記名群の平均値と標準誤差(1)

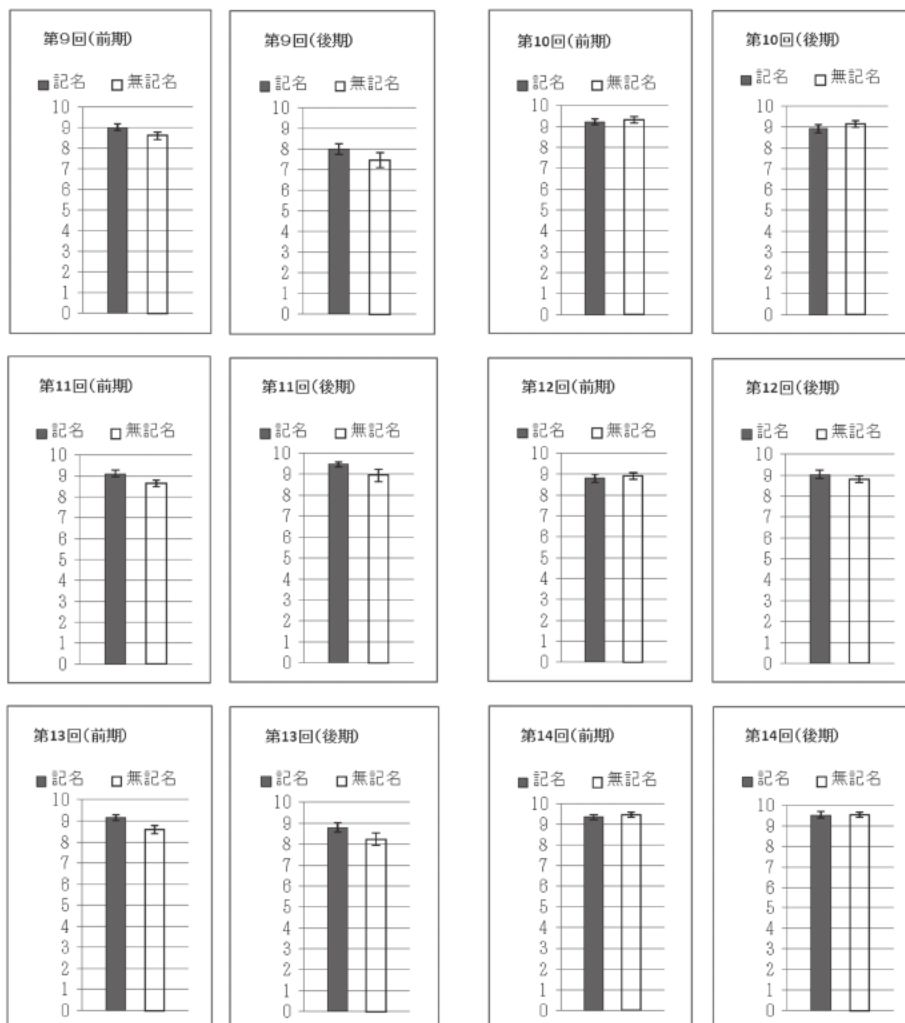


図3 授業毎の記名群と無記名群の平均値と標準誤差(2)

2. 各授業における記名群と無記名群の比較

図1は、平成26年度前期講義「心理学」の各授業における記名群と無記名群の平均値をグラフ化した図である。図2は、平成26年度後期講義「心理学」の各授業における記名群と無記名群の平均値をグラフ化した図である。

図3は、表1、表2で取り上げたすべての授業について、授業毎の記名群と無記名群の平均値と標準誤差を示した図である。

3. 記名式による評価と無記名式による評価の有意差

本研究に先だって実施した『学生の授業評価における記名式と無記名式の有意差(1)』においては、記名式の授業評価と無記名式の授業評価の間に、 $p < .01$ 水準で有意差が認められたのが

1つの授業、 $p < .05$ 水準で有意差が認められたのが2つの授業、 $p < .10$ 水準で有意傾向が認められたのが2つの授業であった。結果、仮説「学生による授業評価においては、記名式による評価の方が無記名式による評価よりも高い評定値が表れる」は概ね支持された、と解釈することができた。

本研究においては、平成26年度後期の全学共通教養科目の講義「心理学」を対象に、同じシラバスで、異なる学生が受講した第1～14回の各授業について1要因2水準の分散分析を行った結果、記名群と無記名群との間に有意差が認められた授業はなかった。第11回の授業において、 $p < .10$ 水準で有意傾向が認められたものの、統計的に有意な差は認められなかった。以上により、本研究においては、仮説「学生による授業評価においては、記名式による評価の方が無記名式による評価よりも高い評定値が表れる」は、先の研究(1)に反して支持されなかった。

このことから、先の研究(1)と本研究の結果を併せて考えると、無記名式による授業評価は、記名式による授業評価に比べてやや高く評価されるという傾向は否定できないものの、統計的な有意差が安定して認められるような明らかな差異はみられない、と結論づけることができる。

引用文献

- 1) 長瀬莊一, 学生の授業評価における記名式と無記名式の有意差 (1), 神戸女子短期大学論攷, **60**, 81-89 (2015)
- 2) 牧野幸志, 学生による授業評価の規定因の検討(3)—記名式による調査が授業評価に与える影響—, 高松大学紀要, **40**, 63-75 (2003)
- 3) 北海道大学評価室, 平成16年度授業アンケート特別版(記名式)分析結果報告(2005)
- 4) 金城忍・嘉手苺英子・高橋幸子・賀数いづみ・渡久山朝裕・金城芳秀, 学生の授業評価を正確に反映する評価項目について—平成22年度開講の授業科目における学生による授業評価アンケート得点の傾向から—, 沖縄県立看護大学紀要, **14**, 97-104 (2013)
- 5) 小久保吉裕・鈴木道隆・永田正義・佐藤邦弘・川月喜弘・内田仁, 記名式と無記名式授業評価アンケートの比較, 第12回大学数育研究フォーラム発表論文集, 40-41 (2006)
- 6) 吉川政夫・有沢孝治・川野辺裕幸・内田晴久, 構造化された授業評価アンケートの開発, 大学論集, 広島大学高等教育研究開発センター, **43**, 337-351 (2012)